

令和7年度乳用牛長命連産性向上 緊急支援事業における飼養管理改善の取組

●乳用牛長命連産性等向上緊急事業とは

令和5年度補正予算から乳用牛長命連産性等向上緊急支援事業（以下「長命連産事業」という）が措置され、従来型の乳量偏重の乳用牛から、長命連産性に重きを置いた強健な乳用牛への転換を図るため、長命連産性の能力の高い精液等の取組を支援することとなっています。中央酪農会議（以下、中酪）は、事業実施主体として本事業の円滑かつ適切な執行を行っているところです。

令和6年度補正予算において事業メニューが拡充され、長命連産性の向上に資する飼養管理技術の普及を行うこととなりました。農林水産省によれば、我が国の種雄牛の遺伝的能力は、これまでの乳用牛改良の成果により北米並みの水準に達している状況であり、雌牛1頭当たりの乳量も年々増加傾向にあります。このような遺伝的能力を十分発揮させ、生産性を向上するためには、個体ごとの能力を把握した上でより一層の飼養管理の改善が求められていると考えられます。

こうしたことから、令和7年度には、農林水産省とともに飼養管理改善による長命連産性向上検討会議を開催し、今般、「乳用牛の飼養管理の改善に係るチェックポイント（以下、「飼養管理改善のチェックポイント」という）」を新たに作成しました。本検討会議には、繁殖・飼養管理等に技術的知見を有する酪農関係者、試験研究機関、日頃から営農指導や飼料設計等に携わっている農協・酪農協等の関係機関の有識者の方々にご参加いただきました。専門的なご助言を多くいただいた委員の皆様のご協力にこの場を借りて感謝申し上げます。本稿では飼養管理改善のチェックポイントについてご紹介させていただきます。

●本検討会議で示された具体的な長命連産性向上の効果

本検討会議では、農林水産省から平均除籍産次等のグラフ（図1）や供用年数を延長した試算（図2）などを示して近年の乳用牛の飼養管理をめぐる情勢を報告しました。これらによれば、平均除籍産次は、令和2年以降年々短縮傾向で推移しており、除籍理由については、受胎しないなどの「繁殖障害」、乳房炎や乳器損傷などの「乳器障害」、肢蹄潰瘍等の「肢蹄の故障」などとなっていることがわかります。また、このような除籍理由となる障害を起こさないよう、長命連産性の向上につながる飼養管理を目指すことにより、乳牛償却費の低減や経営全体の出荷乳量の増加といった経営改善が期待できると考えられます。また図2の試算にもあるように、搾乳牛100頭規模の経営体において、供用年数を3.5年から4.0年に延長にした場合に、毎年確保しなければならない初妊牛頭数を抑えることも期待されます。さらに近年は、酷暑・猛暑の影響により夏季の受胎率が低下し、受胎時期が秋以降にずれこんでおり、需要期である夏季に泌乳ピークを迎える春産み初妊牛の価格高騰なども生じており、乳牛償却費の抑制は経営安定につながる有効な取組と考えられます。

●飼養管理改善のチェックポイントの概要

このような飼養管理の重要性や長命連産性の向上の効果は、酪農家の皆さんも十分承知のものと思われれます。平成27年に公表された「乳用牛のベストパフォーマンスを実現するために」（以下「10年前のベストパフォーマンス」という）には中酪も監修として携わり、このほか、家畜衛生や家畜排せつ物処理、アニマルウェルフェ

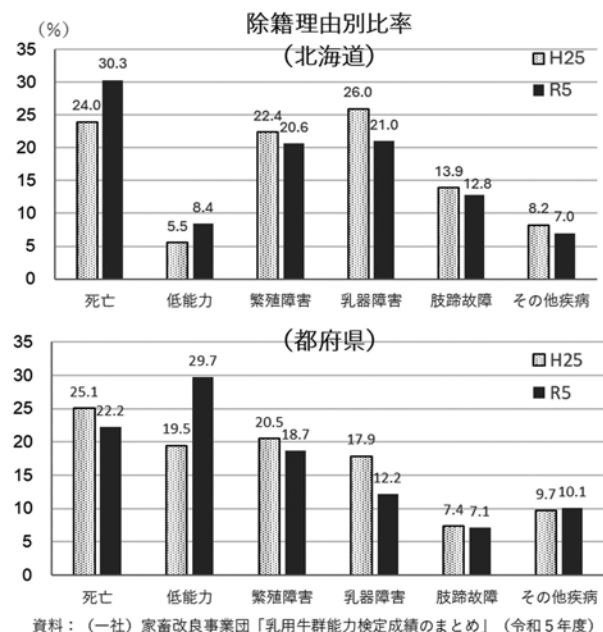
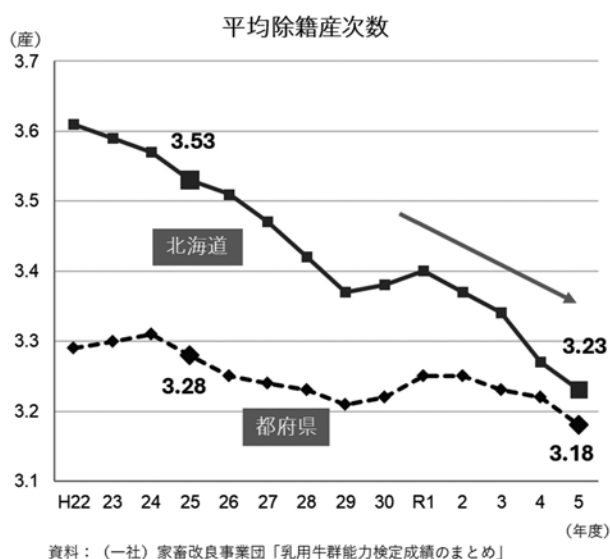


図1 平均除籍産次と除籍理由別比率

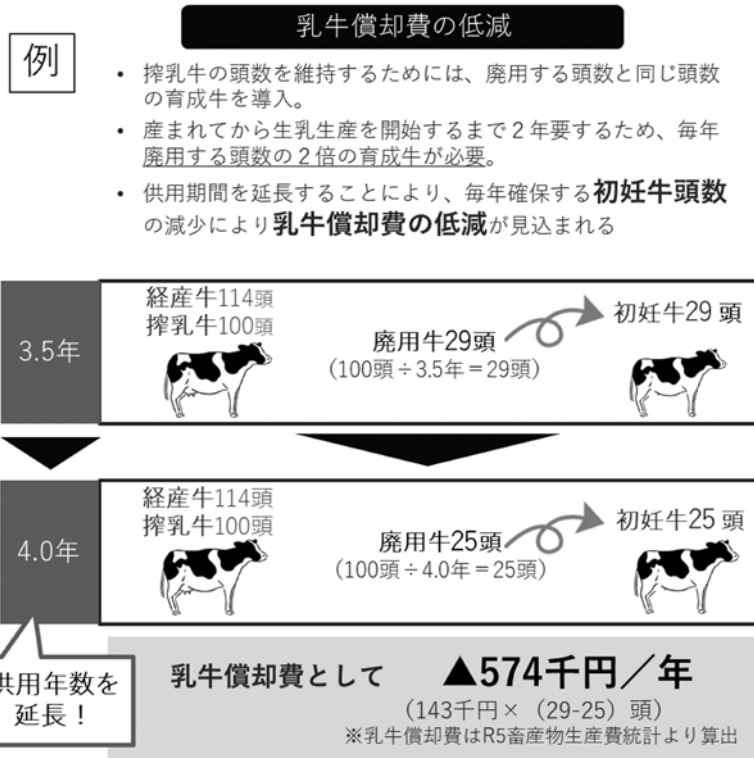


図2 長命連産性向上の効果

アなど、近年の酪農を取り巻く情勢に対応しながら、衛生的で安全な生乳を供給するための取組みを推進するため「生乳生産管理マニュアル」を作成し、適切な飼養管理を呼びかけてきました。

他方で、近年は労働力の確保などの課題が山積する中、家畜の飼養管理だけでなく自給飼料生産、経営管理などの負担も多いと考えられます。そのような中、酪農家の方々の経営改善の一助となるよう、今一度、飼養管理の重要性を呼び掛ける必要があると考えられました。加えて、近年の情勢を踏まえた飼養管理改善のチェックポイントを整理することが求められていると考えられました。

今回の飼養管理改善のチェックポイントの検討に当たっては、

- ① 10年前のベストパフォーマンスの検討当時の7つの課題に向き合い、必要な更新を行うとともに、
- ② 10年前からの情勢の変化に伴い新たな課題となっている（ア）資材価格高騰の対策のための国産粗飼料の活用、（イ）夏季の暑熱対策、（ウ）搾乳ロボット等のスマート農業技術を踏まえた飼養管理を盛り込み、
- ③ 管理別に整理し、（ア）繁殖管理、（イ）飼養管理、（ウ）衛生管理・疾病予防（エ）子牛・哺育管理の4つのテーマに大きく分類しました。

なお、10年前のベストパフォーマンスは、主に搾乳牛の能力の発揮を目的にしたものであり、「子牛・哺育管理」に触れられていなかったことから、今回新たに整理をしました。

また、近年の猛暑・酷暑による生乳生産量や受胎率の低下などの課題への対応として、飼養管理改善のチェックポイントには基本的な暑熱対策や不受胎対策も盛り込まれました。効果的な暑熱対策により通年で安定的な後継牛確保は、繁殖管理などが準化され、飼養管理の効率化や酪農経営の安定に資すると考えられます。加えて、飲用乳の需要期である夏季の生乳生産・取引が促され、酪農経営にとっては所得の向上に繋がる可能性が期待できます。

●飼養管理改善のチェックポイントの活用と今後の生産現場での普及に向けて

このような視点で取りまとめられた飼養管理改善のチェックポイント（図3）は、令和8年3月に農林水産省及び中酪のHPにおいて公表されたところです。本資料は文字版になっており、まずは普及センターや農協、牛群検定員などの地域における指導的な立場の皆様、生産現場において技術指導を行う際の参考資料として取り扱ってほしいと考えています。

令和8年度事業においては、引き続き措置されている能力の高い精液等への利用推進のほか、新たな支援メニューとして、本事業に参画する取組主体（農協等）が、各地域において飼養管理技術の向上のための研修会を開催する際の経費も支援できるようになっている。飼養管理改善のチェックポイント等を活用した研修会の開催についてもご検討いただきたいと考えています。これに関し、指定生乳生産者団体をはじめとした酪農関係組織の皆様にも是非、飼養管理改善のチェックポイントをご一読いただき、周知にご協力をお願いできればと考えています。

さらに本年度事業では、引き続き農林水産省と連携し、飼養管理改善のチェックポイントに記載された項目の考え方や図解（夏季の不受胎対策のフローチャート、専門用語の解説、牛舎環境整備のポイント等）などの補足資料を盛り込んで、酪農家向け普及資料の作成を行う予定です。普及資料については、農林水産省や中酪のHPへ掲載するだけでなく、農協や検定組合等への配布を行い、更なる適切な飼養管理の促進に活用していただければと考えています。



図3 乳用牛の飼養管理の改善に係るチェックポイント（QRコード）